

埼玉県民は草でも食ってる？



ヤブガラシのお浸し



「埼玉県民にはそのへんの草でも食わせておけ！」とは映画「翔(と)んで埼玉」で都知事の娘、百美(二階堂ふみ)が埼玉県民の女生徒に放った言葉である。具合が悪くなった時は草でも食っていけば元気になるだろうという埼玉県民をデイスった映画で、あまりのばかばかしさに映画館で大笑いをした記憶がある。

最近では米不足が深刻な問題となった。これほどまでに日本の農業を考えることがあっただろうか？埼玉県民だけでなく日本の食糧自給率38%、種の自給率10%以下と言われ、肥料は国内だけで賄うことが厳しい状況になっている。

先日、中島地域で「野草を食べる会」なる事業があり、映画のセリフを地で行くような企画で、中島壮年部(高



橋部長)が主催した。これが大盛り上がり、の事業となり総勢30名近い参加となった。当日朝、公会堂に集合し食べられる野草知識のレクチャーを受けた後、男女のグループに分かれ野草採集の探検に出かける。しかし「ガキンちょ」は昔から道草が好きなのだ。いつの間にか子ども時代遊んだ道や風景を歩くことで、子ども時代にタイムスリップ。「昔ここで遊んだいな〜」「ここが昔の道だいな〜！」河原まで来ると『すっかんぼ(イタドリ)』がたくさんあった。子どものころ河原に行くと、ムシヤムシヤと酸っぱいのを味わったものだ！「オイッ食ってみ！酢っぱえから」子ども時代が蘇ってくる。「懐かしい〜何十年ぶりかさあ〜」いいおっさん達がゾロゾロと草の入ったビニール袋を持ち

歩くのだから知らない人が見たら異様な光景だろう。1時間ほど採集探検して戻ると、女性陣はすでに忙しげに動き回っていた。湯を沸し天ぷらの用意をしたり、美味しそうなヨモギ団子も出来上がっていた。フーフラと遊んできた男たちからすると少し申し訳ない気がするが、今日の主役はあくまで野草だ！戦利品が審査員により選別され、調理に取りかかった。まずはタンポポの花を天ぷらにする。味はごく普通。味付けは塩か醤油。柿の葉やクズの蔓の天ぷらは美味だ！タンポポの茎はきんぴら風に、カラスノエンドウはお浸し、ハルジオンやヨモギは天ぷら等々：私もツクシの佃煮を皆さんに食してもらった。後は各自が持ち寄った、山菜やら野草の調理品などが配給された。昔あった『オヒマチ』のようである。(公会堂で子どもが遊び、お母さんたちの井戸端会議的要素もある事業があった)今回の事業で良かった点は、野草に関心が持てたこと。

私たちの周りに食べられる野草がたくさんあることを知り、普段は厄介者であった草が実は貴重な食材であったことを気づかせてくれた。自然の野草は緊急時の食材であることを覚えておこう。最近、道端に生えている草を見ると食材に見えてしまう。そんな我が家の食糧自給率は野草料理で上がったのか？

丸山高司

※野草には毒草もあるため専門家のアドバイスを受けるようお願いいたします



かんぱ〜い!



農業委員会では、年一回町内すべての農地の調査を行なっています。この利用状況調査は、現地を巡回して農地の利用状況を把握するもので、遊休農地、荒廃農地の調査や違反転用の発見等、農地の有効利用を図ることを目的としています。そのため、農業委員並びに農地利用最適化推進委員が農地内に立ち入ることがありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

※委員が農地の調査をする際は、農業委員会の緑色の帽子を着用します。

